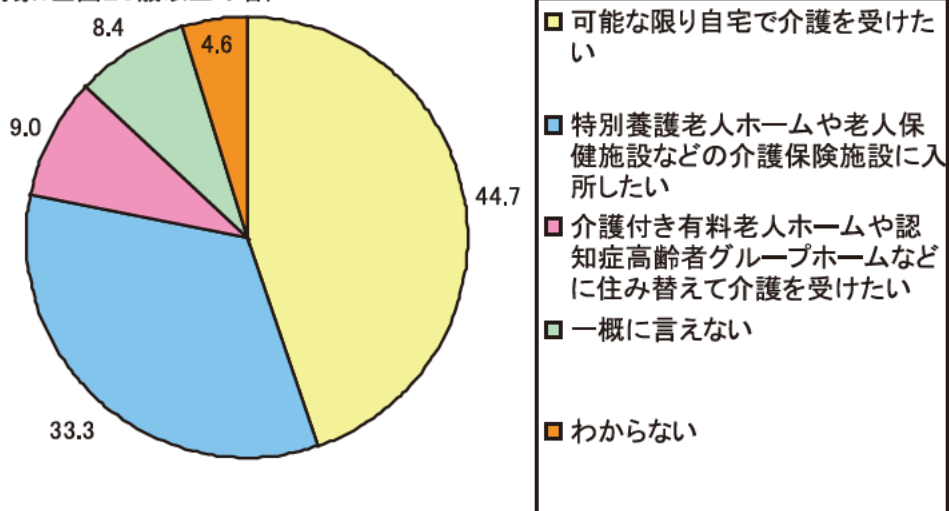


参考資料 1

～高齢者の生活に係る 各種データ～

介護が必要となった場合「可能な限り自宅で介護を受けたい」とする者が最も多い

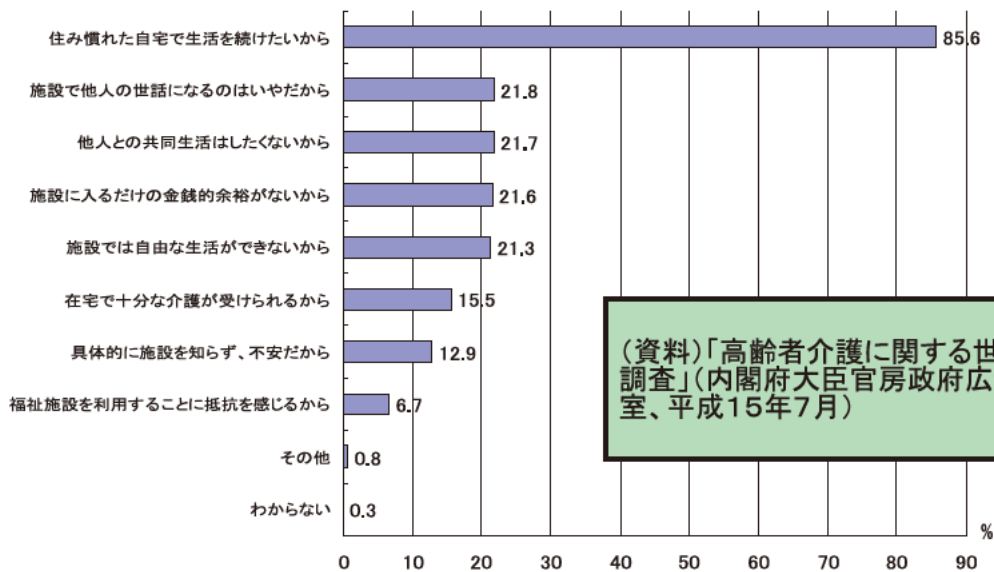
(問)仮に介護が必要となった場合にどこで介護を受けたいか。
(調査対象:全国20歳以上の者)



(資料)「高齢者介護に関する世論調査」
(内閣府大臣官房政府広報室、平成15年7月)

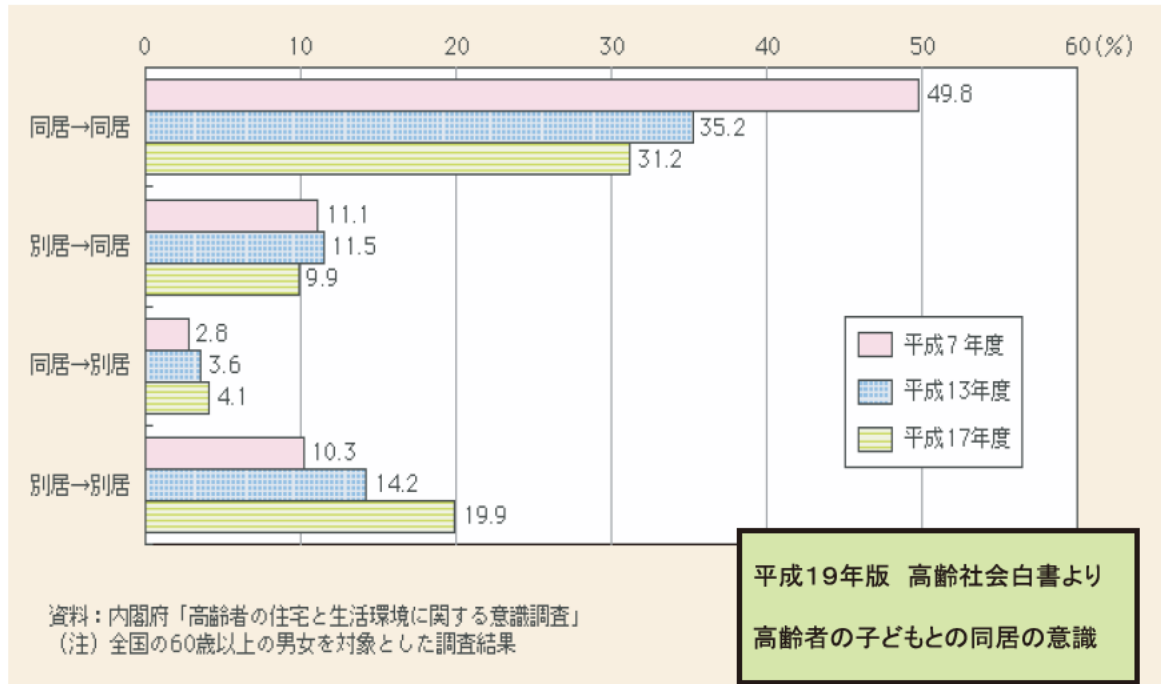
自宅で介護を受けたい理由の約9割が「住み慣れた自宅で生活を続けたいから」

・(問)「可能な限り自宅で介護を受けたい」と答えた理由は何か。(複数回答可)
(調査対象:全国20歳以上の者)

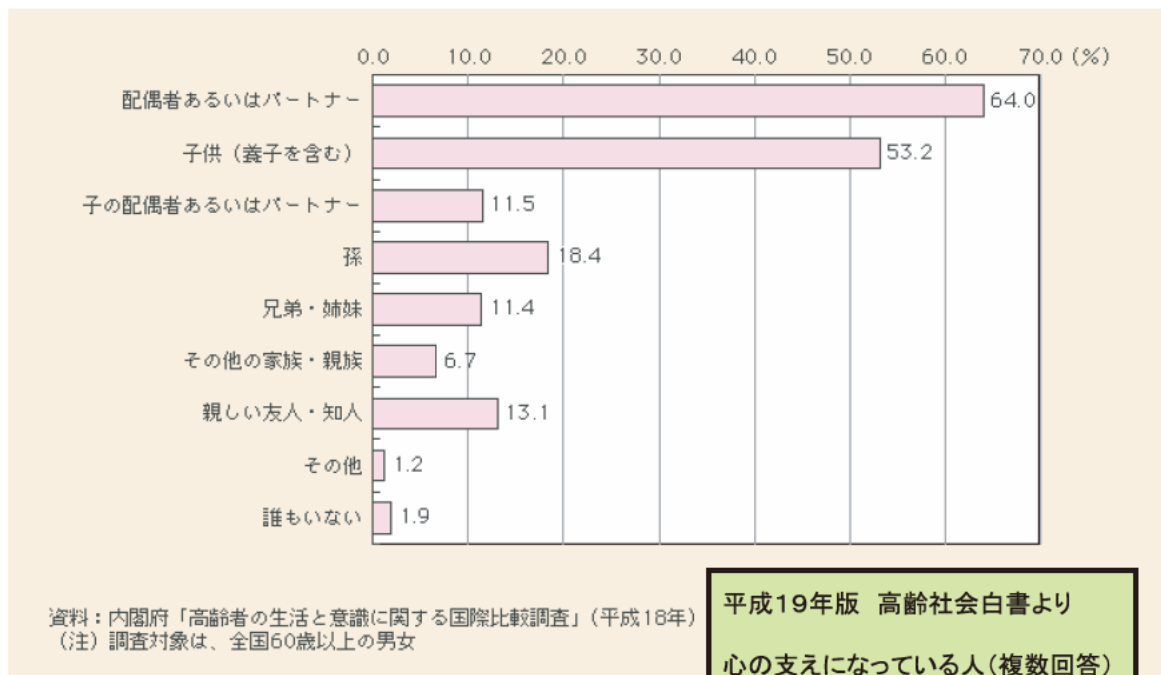


(資料)「高齢者介護に関する世論調査」(内閣府大臣官房政府広報室、平成15年7月)

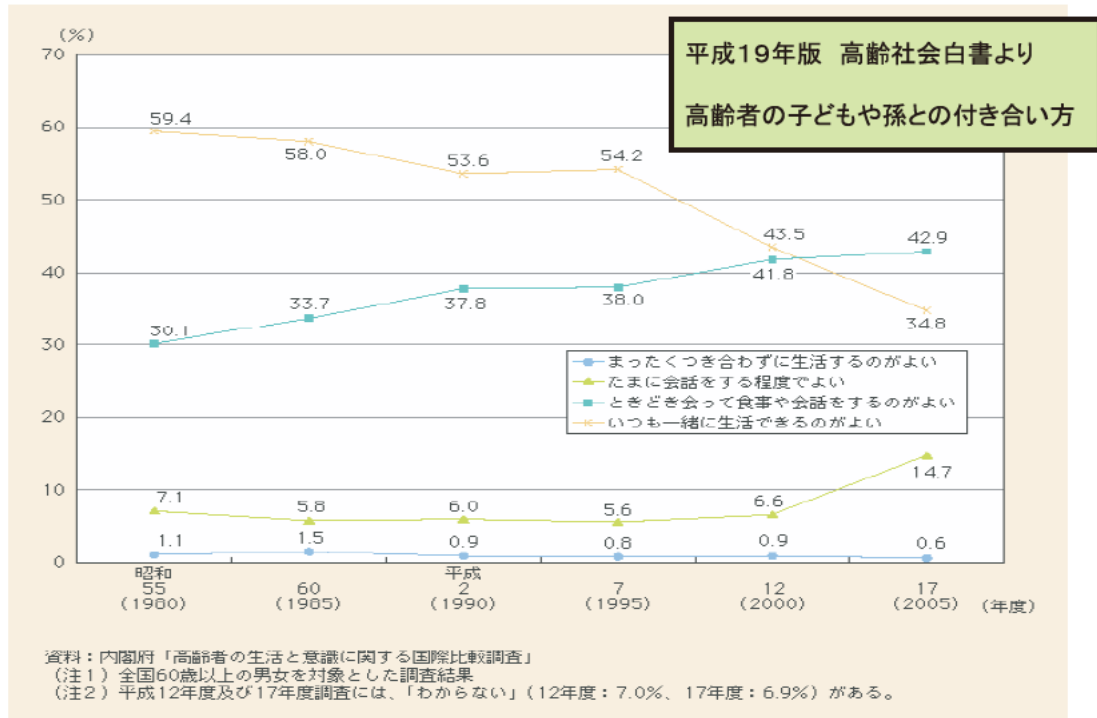
「現在同居しており将来も同居」という意向が減少



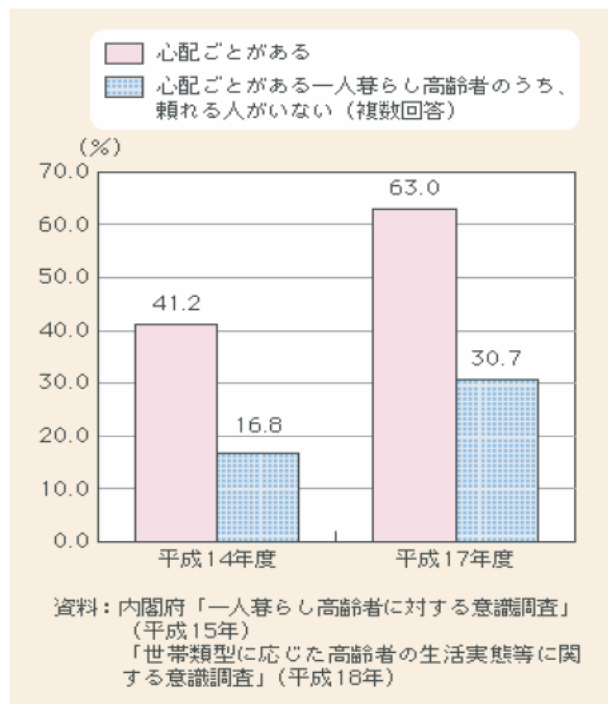
別居傾向はあるが、高齢者にとって子どもが心の支えとなっている



密度の薄い付き合い方でもよいと考える高齢者が増えている

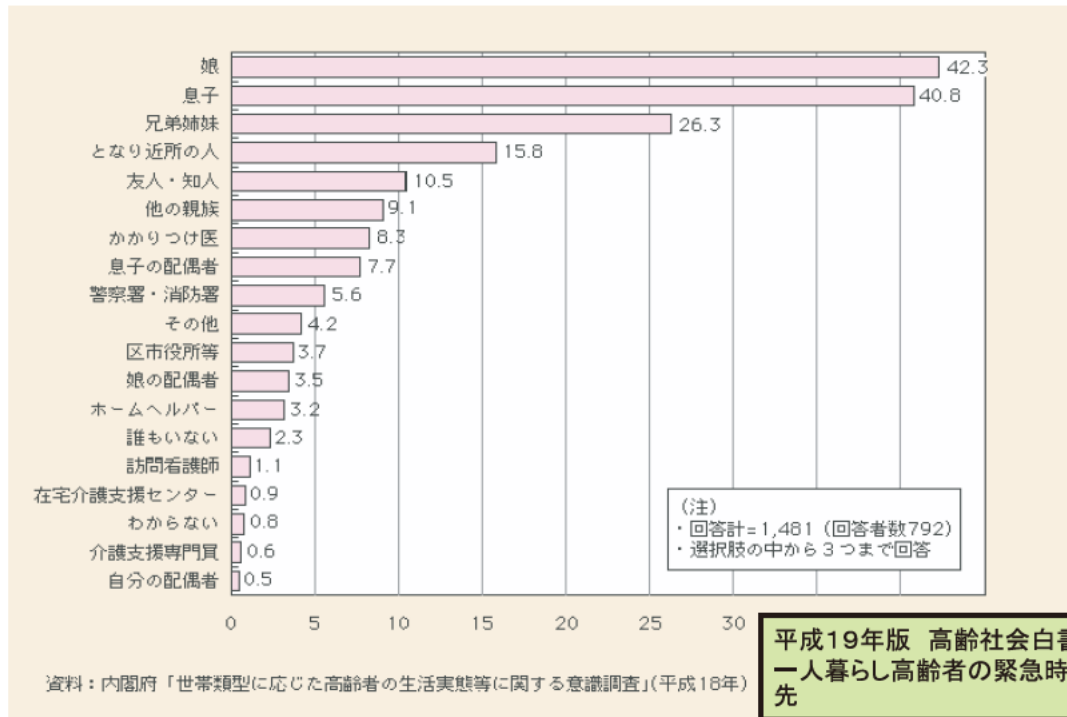


「心配ごとがある」、「頼れる人がいない」割合が増加

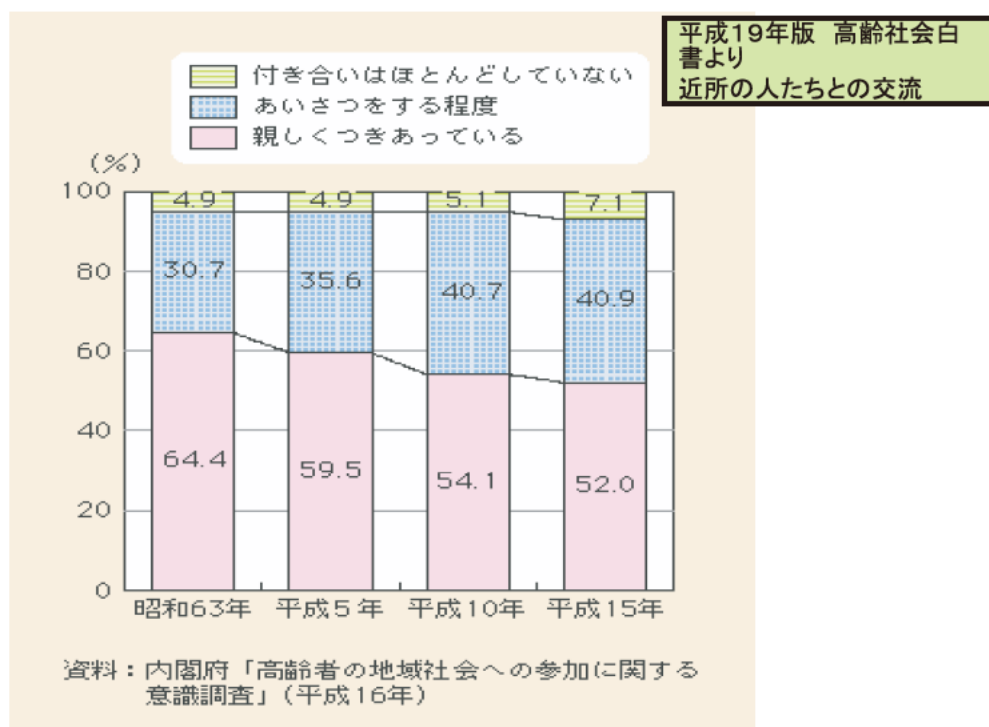


平成19年版 高齢社会白書より
日常生活における心配ごと及びその内容について

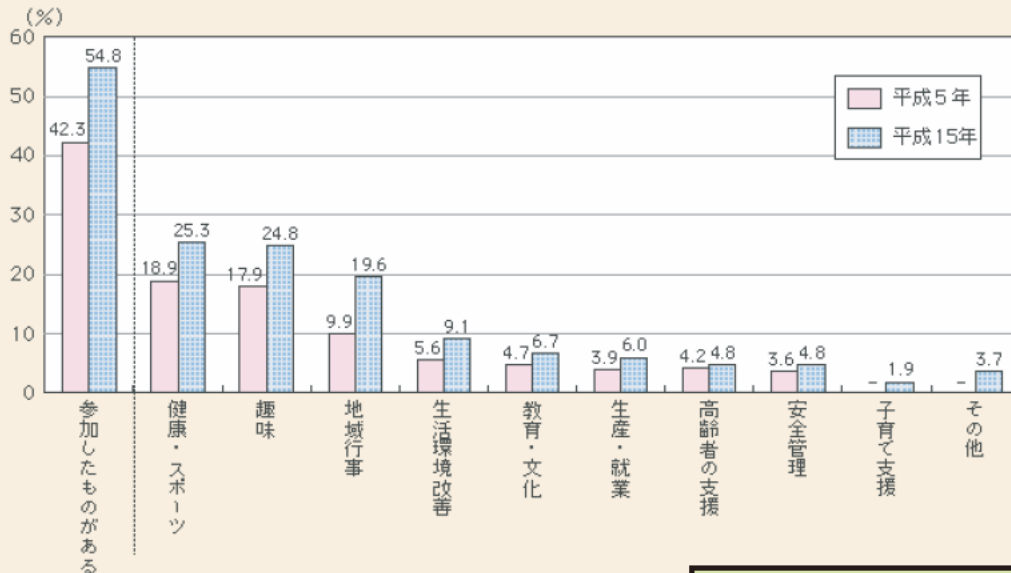
一人暮らしであっても、子どもとのつながりを望んでいる



近所の人たちとの交流が弱まっている



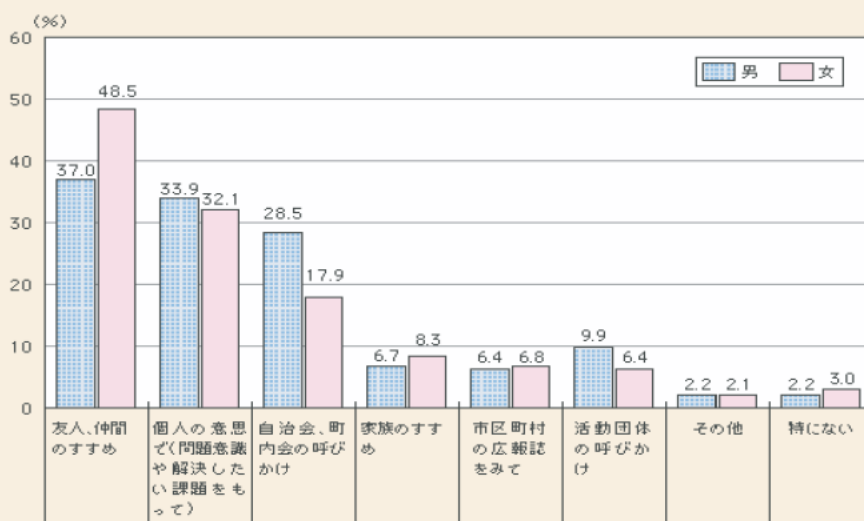
高齢者は様々なグループ活動に参加するようになっている



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成16年）
 （注）全国60歳以上の男女を対象とした調査結果

平成19年版 高齢社会白書より
 高齢者のグループ活動への参加状況

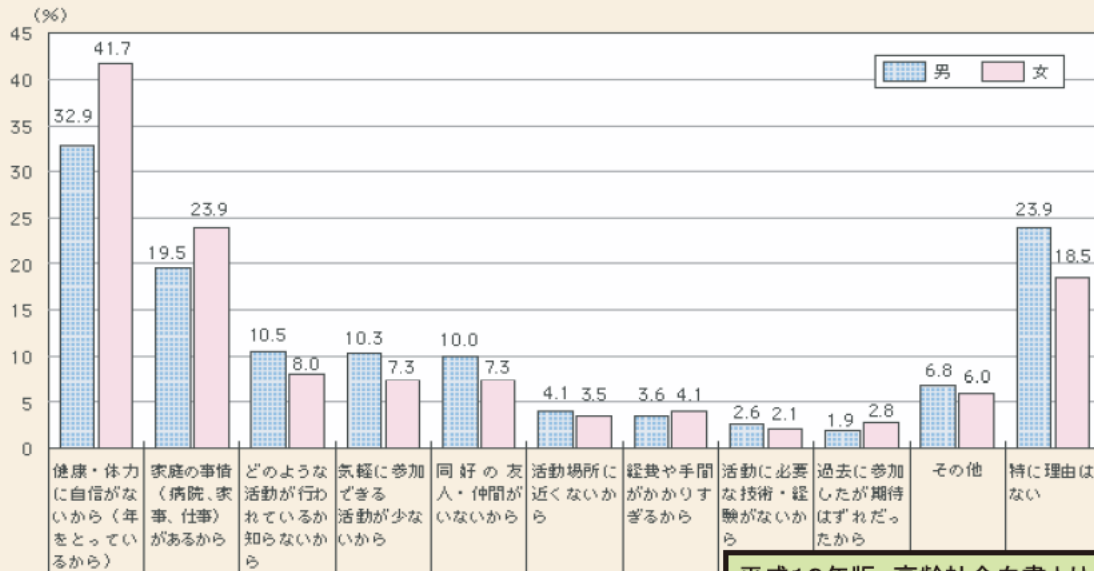
参加のきっかけの約4～5割は、友人・仲間のすすめ



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成16年）
 （注）全国60歳以上の男女を対象とした調査結果

平成19年版 高齢社会白書より
 グループ活動に参加したきっかけ
 （複数回答）

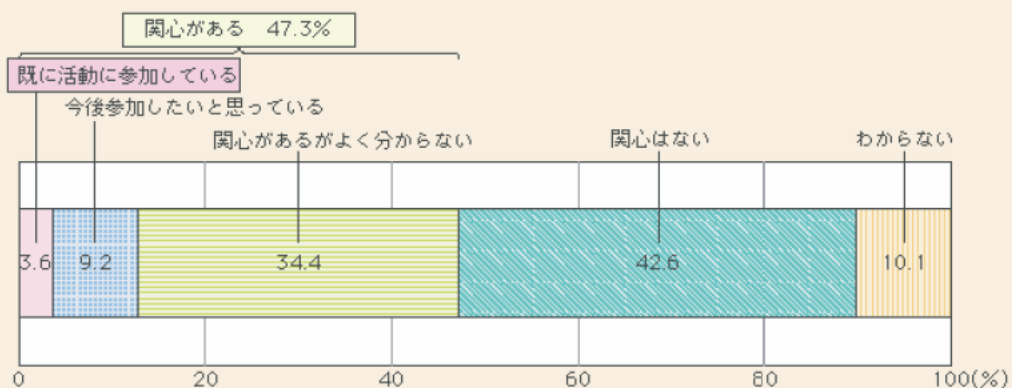
参加しなかった理由の約3～4割は健康・体力、約1割は友人・仲間がいない



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成16年)
 (注) 全国60歳以上の男女を対象とした調査結果

平成19年版 高齢社会白書より
 グループ活動に参加しなかった理由(複数回答)

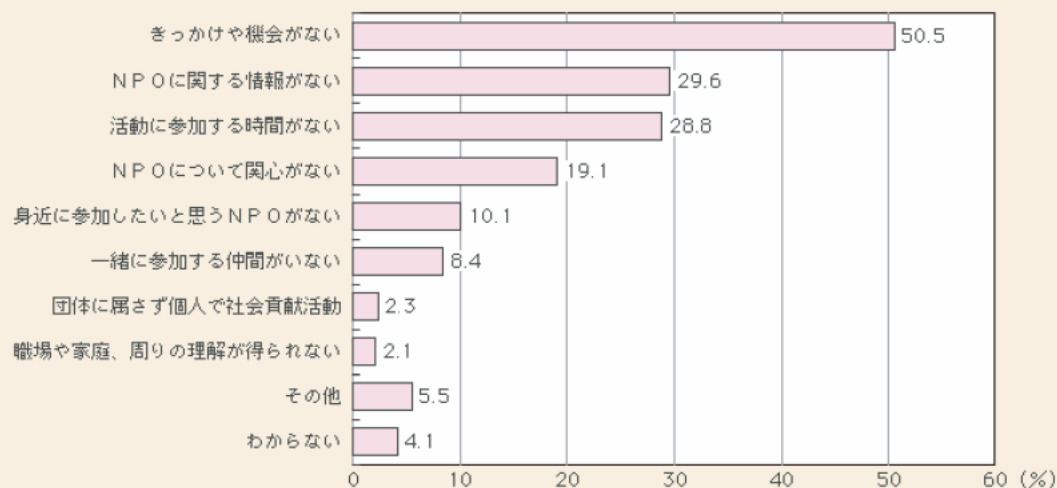
NPO活動に関する関心は高いが、「よく分からない」という意見もある



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成16年)
 (注) 全国60歳以上の男女を対象とした調査結果

平成19年版 高齢社会白書より
 NPO活動への参加の有無

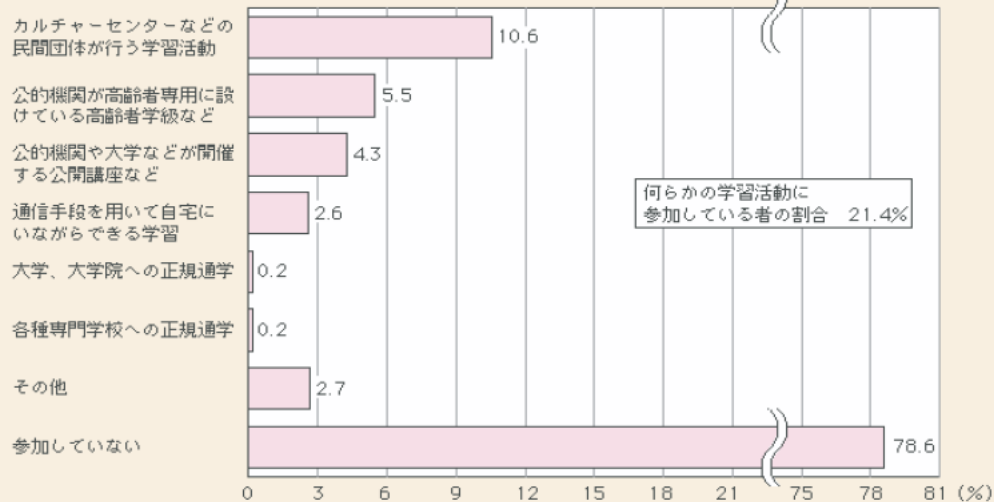
NPO活動への参加が少ない理由は、「きっかけ」や「情報」の不足



資料：内閣府「NPO（民間非営利組織）に関する世論調査」（平成17年）

平成19年版 高齢社会白書より
NPO活動へ参加しなかった理由
(複数回答)

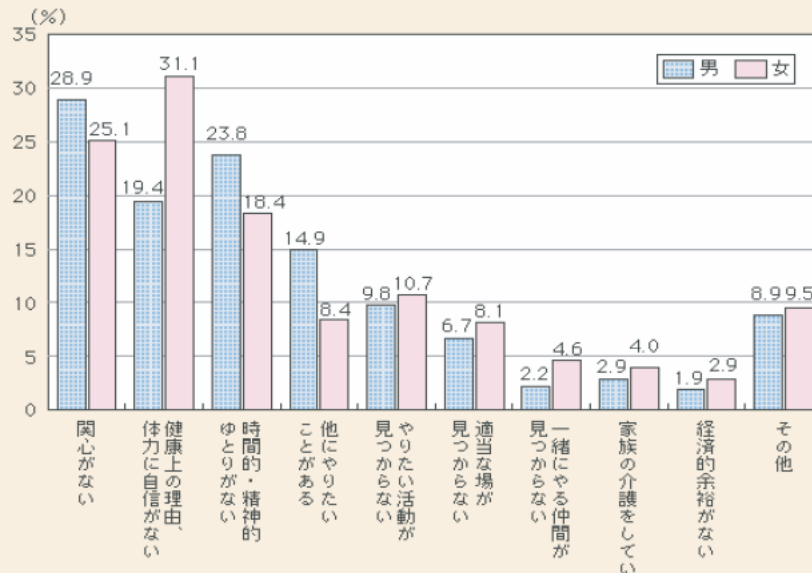
学習活動に参加している高齢者は2割程度



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成18年）
(注) 全国60歳以上の男女を対象とした調査結果

平成19年版 高齢社会白書より
高齢者の学習活動への参加状況
(複数回答)

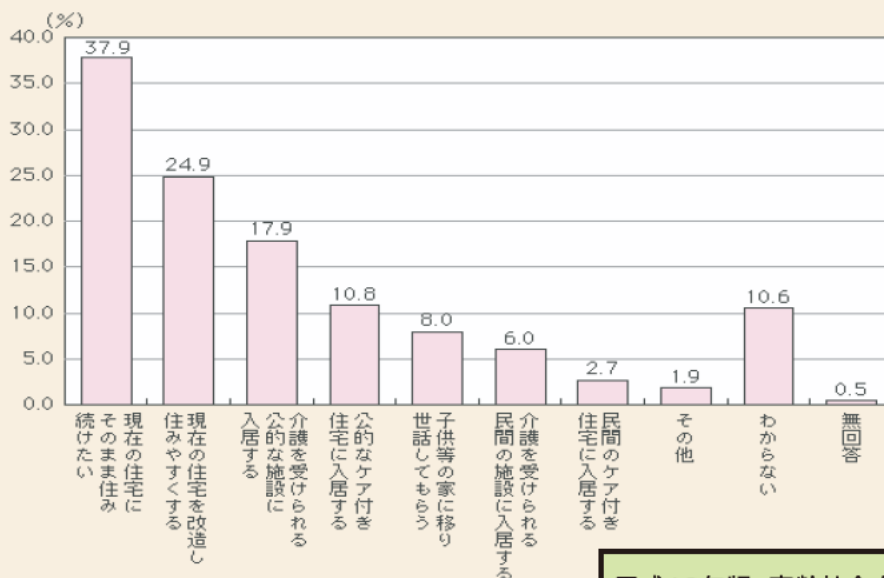
学習活動に参加しない理由は「無関心」、「健康・体力」、「ゆとり」



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」(平成18年)
 (注) 全国60歳以上の男女を対象とした調査結果

平成19年版 高齢社会白書より
 学習活動に参加しなかった理由
 (複数回答)

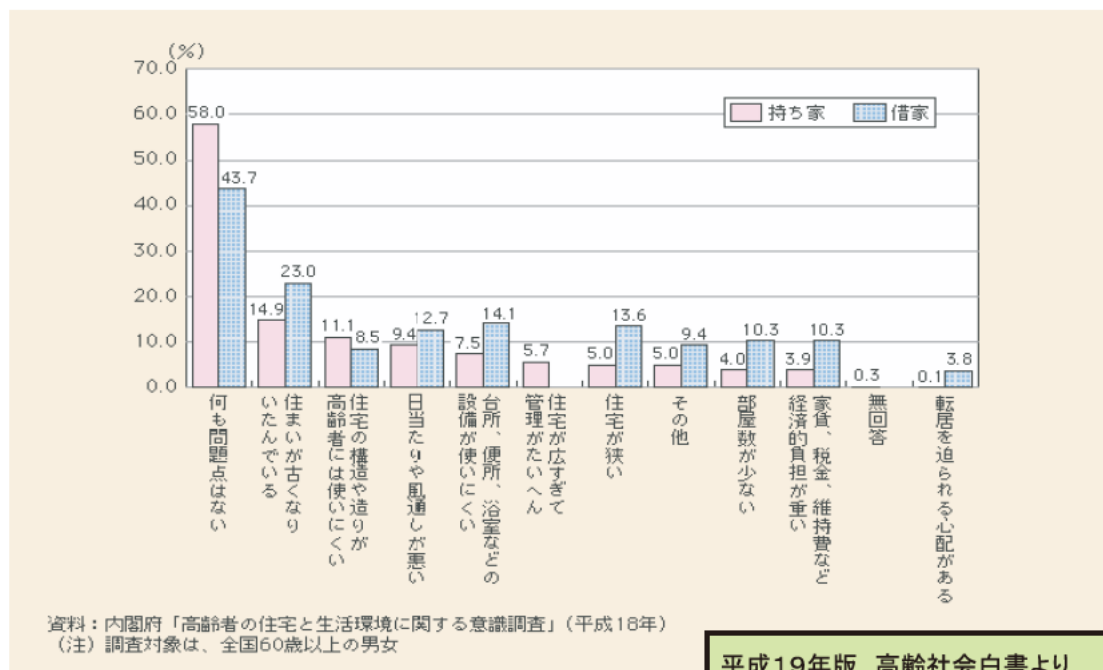
高齢者の多くは現在の住居に住み続けることを希望、施設希望は2割弱



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」(平成18年)
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

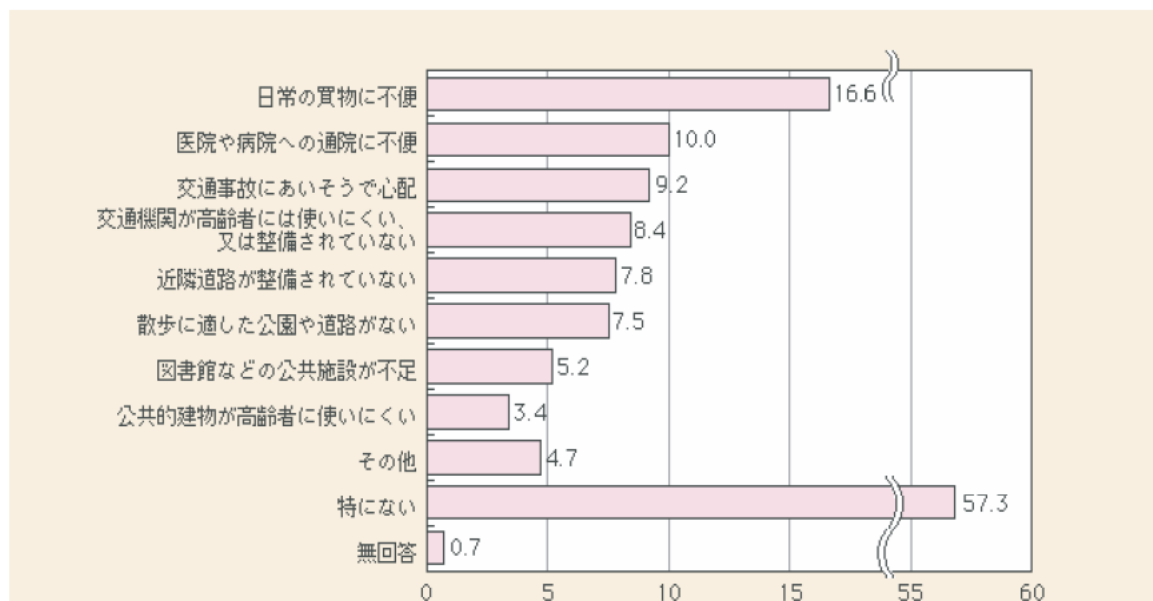
平成19年版 高齢社会白書より
 虚弱化したときに望む居住形態(複数回答)

高齢者の半数以上が現在の住宅に満足



平成19年版 高齢社会白書より
住宅で困っていること(複数回答)

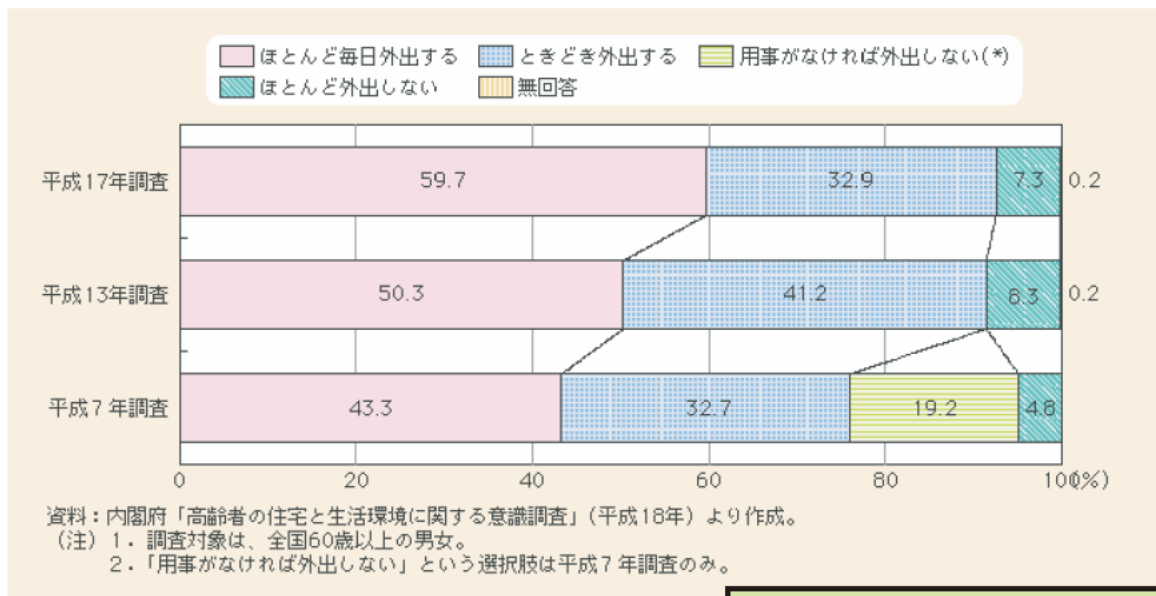
居住地で不便・気になる点は「買物」、 「通院」、「交通事故」等



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」(平成18年)
(注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

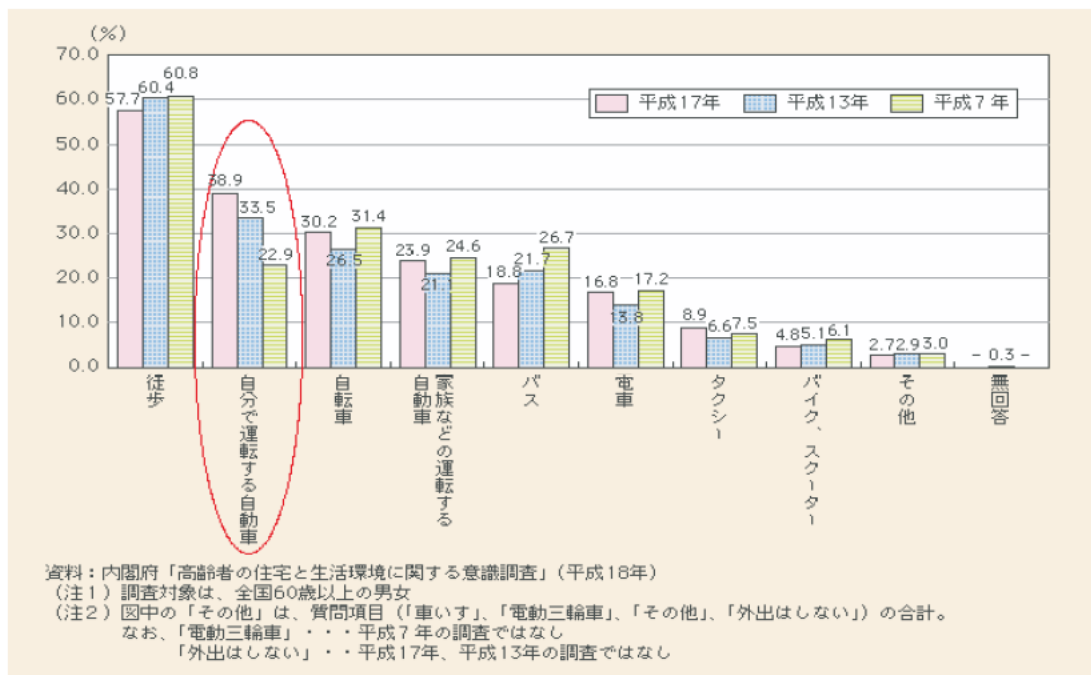
平成19年版 高齢社会白書より
居住地の不便な点(複数回答)

外出の機会は、過去の調査と比較すると増加



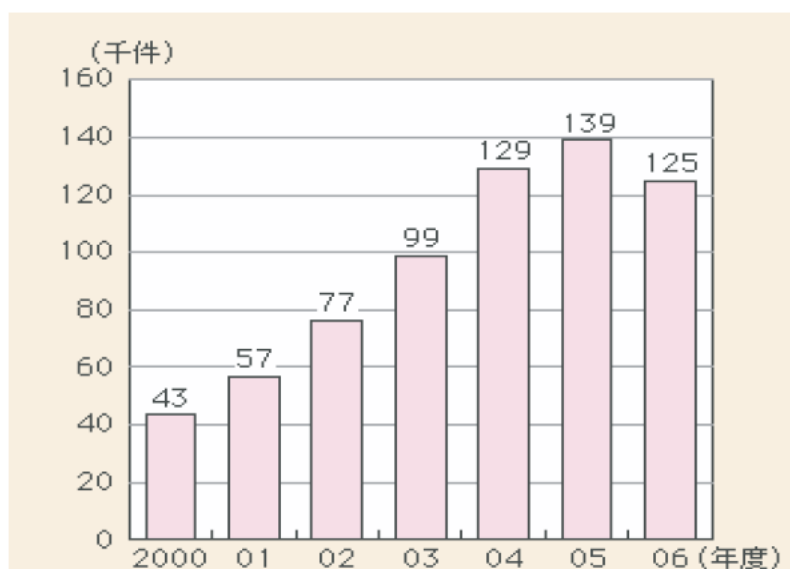
平成19年版 高齢社会白書より
高齢者の外出状況

自分で運転する自動車の割合が増加傾向にあり、交通事故件数の一因に



平成19年版 高齢社会白書より 高齢者の外出手段

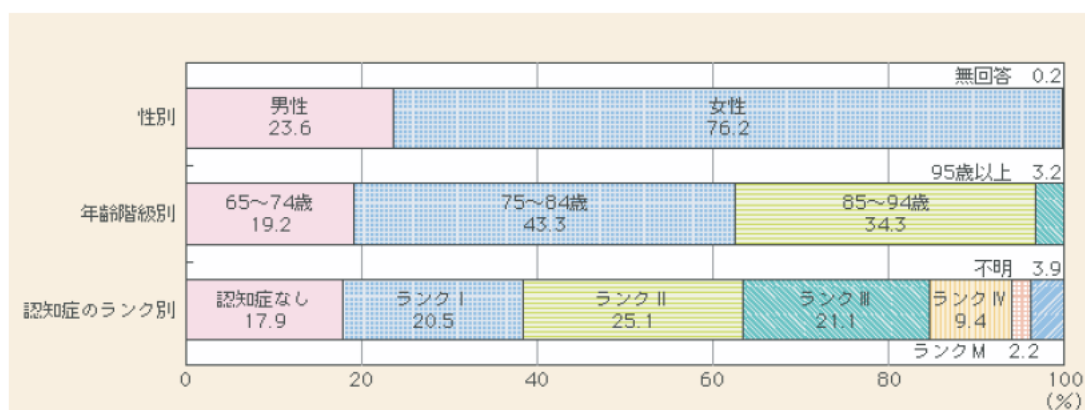
消費トラブルの被害が年々増加



資料：国民生活センター資料

平成19年版 高齢社会白書より
契約当事者が70歳以上の消費相談件数

家庭内で虐待を受けている高齢者の8割が「認知症あり」



資料：(財)医療経済研究・社会保険福祉協会「家庭内における高齢者虐待に関する調査」(平成15年度)

(注) 認知症のランクは、「痴呆性老人(認知症高齢者)の日常生活自立度判定基準」による。

ランクⅠ：何らかの痴呆(認知症)を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。

ランクⅡ：日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。

ランクⅢ：日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。

ランクⅣ：日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。

ランクⅤ：著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

平成19年版 高齢社会白書より 虐待を受けている高齢者の属性

